

伝統工芸「山葡萄のつる細工」に新たな息吹を！

つる細工新商品のお披露目ポップアップ展を開催します

西川町山村活性化地域協議会では、伝統工芸品として広く愛されている「山葡萄つる細工」をより多くの方に知っていただき、新しい形で次世代に継承していくことを目指し、日建設計コンストラクション・マネジメント株式会社の協力を得て、新たな商品の開発に取り組んできました。

この度、プロジェクトを通して約半年をかけ制作してきた、従来の山葡萄籠にはなかった新しいフォルムの籠と、それに合わせて制作したインナーバッグや、グラフィックデザイナー「pinkpepper」の2人が西川町を訪れてインスピレーションを受け、デザインした大判スカーフと、それを留めるつる細工のスカーフリングという、2つのコラボレーションアイテムが完成し、東京都原宿でお披露目を兼ねたポップアップ展を開催します。

伝統の技術や工芸品としてのデザインと、グラフィカルなデザインアイテムとのコラボレーションを、ぜひお楽しみください。

ポップアップ開催概要

日時：2月5日（木）～2月10日（火）
11:00～19:30

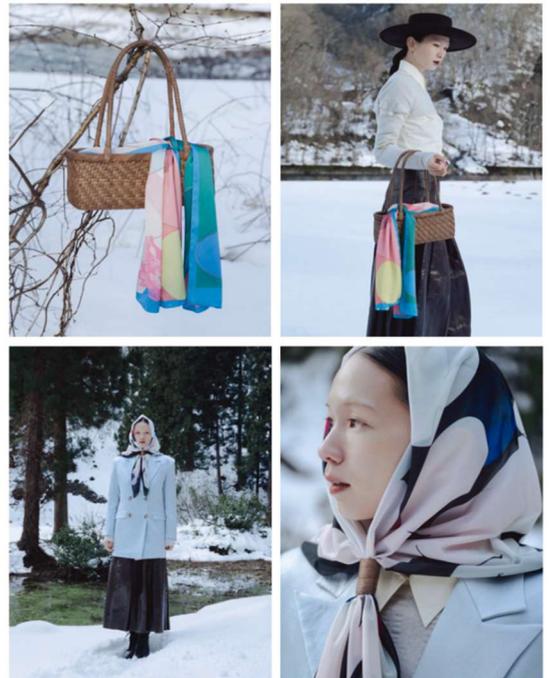
場所：THINK OF THINGS 1F CASE
（東京都渋谷区千駄ヶ谷3-62-1）

コラボレーションアイテム：

- KOGUMA 山葡萄つる細工 横長籠／持ち手長め
長めのハンドルに横長のフォルムの横長籠。
- pinkpepper インナーバッグ（mingle／sunlight）
山葡萄の籠をモダンに彩るインナーバッグ。
- KOGUMA 山葡萄つる細工 スカーフリング
自然のままの表情が美しいスカーフリング。
- pinkpepper 大判スカーフ（mingle／sunlight）
軽やかで透け感のある大判スカーフです。

主催：西川町山村活性化地域協議会

支援：日建設計コンストラクション・マネジメント株式会社



プロジェクトの背景

西川町の大井沢地区は冬になると何ヶ月も深い雪に閉ざされ、外界との交流も制限されます。そこで、冬場の手仕事として「山葡萄つる細工」が受け継がれてきました。職人たちは6月中旬～7月上旬に周辺の山々に入っては山葡萄のつるを採取し、皮を剥いで乾燥させ、冬の手仕事に備えてきました。手間ひまかけて丹念に編まれた籠は、使いながら自分色に育てていける一生ものの生活用具として高い評価を受けています。

しかし、高齢化による作り手の減少や原料となるつるの確保が難しくなるなどの課題を抱えており、協議会では農林水産省の農山漁村振興交付金を活用し、後継者の育成や材料の栽培実験、商品開発など持続可能な産業化への取り組みを進めてきました。

今回のプロジェクトは、つる細工の職人と異業種の作り手とがともに手を取り合うことで、ここからまた新たな光景を描いていくことを目指したものです。